



Scientists Supporting Innovation of School Science

NEWSLETTER NO. 4 2008/4/27

NPO 法人 科学技術振興のための教育改革支援計画

<http://utsc2.chem.s.u-tokyo.ac.jp/~inorg/SSISS/index.html>

1. ニュースレターの第4号をお届けします。
2. 総会とパネル討論会の予定
3. 今年度の支援活動の展望
4. 日本科学教育学会年会での討論会
5. NHK 早川解説委員からの依頼
5. 【連載】理科教育改革の Tips (3)

◎ニュースレターの第4号をお届けします。

緑の季節となりました。SSISS 会員の皆様にはお元気のことと存じます。今回のニュースレターでは、5 月に開催される総会について、前号に引き続きお伝えいたします。

大木理事長による連載、「理科教育の Tips」も是非ご一読ください。この連載についてのご意見やご質問は大木理事長宛（アドレス下記）にお送りください。

また、ニュースレターに関するその他のご意見やご連絡はこのメールへの返信としてお送りください。

◎総会とパネル討論会の予定

平成20年度（第4回）通常総会が次の予定で開催されます。正式の開催通知は定款の規定により追って正会員の皆様にお送りいたします。今回は下記の通り興味深いパネル討論も計画されていますので、ぜひご出席ください。なお、ご都合がつかない方は必ず委任状を提出してください。

日時 5月24日 午後2時から3時30分(予定)

会場 立教池袋中学校・高等学校 センテナリアルホール

議題 平成19年度決算報告、事業報告

平成20年度事業計画、予算、その他

総会終了後に同じ会場で SSISS の支援活動についてパネル討論を開催します。ここではまず、これまでに実際に活動された会員の方々に具体的な体験や感想をお話いただいた上で、その効果や問題点どについて参加者の自由な意見交換を行う予定です。このような討論は初めての試みですが、貴重な体験を分かち合うことで今後の活動に役立つものと期待されます。会員各位の積極的なご参加をお願いいたします。

立教池袋中学校・高等学校の所在地については下記ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.rikkyo.ne.jp/grp/ike/others/place.html>

◎今年度の支援活動の展望

平成20年度の事業計画については5月24日の総会でご審議いただく予定ですが、昨年引き続き、小学

校からの支援要請が多くなると予想されます。これには理科教育支援員配置制度（SCOT）が影響していますが、そればかりではありません。

小学校に比べると、中学・高校からの活動要請は現在のところいずれも数校程度にとどまっています。これにはいろいろな理由があるでしょうが、中学・高校での科学教育の改革は、小学校のそれにもまして重要かつ緊急と考えられますので、この方面への活動を一層拡大する必要があります。会員の皆様のご意見・ご協力を是非お願いしたいと存じます。

◎日本科学教育学会年会での討論会

日本科学教育学会の第32回年会（8月22日～24日、於岡山理科大学）で私たち SSISS の活動を中心とした討論会が年会実行委員会企画として開催されることが正式に決まりました。現在、実行委員会が具体的なプログラムを練っていますが、8月23日に開催される可能性が大了。予定されているスピーカーは大木道則理事長のほか、熊野善介（静岡大学教育学部）、村山哲哉（東京都墨田区教育委員会）、山口毅（東京都中野区立北中野中学校）の諸氏です。

ご都合のつく方はご出席ください。年会の詳細については下記ウェブサイトをご覧ください。

<http://certems.shinshu-u.ac.jp/jsse/>

◎NHK 早川解説委員からの依頼

NHK の早川信夫解説委員から、下記のような依頼がありましたのでお知らせします。

（抜粋）NHK解説委員室では、4月から新番組「双方向解説・そこが知りたい！」をスタートさせました。この番組の特徴は、視聴者から寄せられた質問や意見をもとに、それぞれ専門の違う解説委員が意見を闘わせるというものです。お互いに意見を聞き合いながら、その意見に対して自分の考え方をぶつけるという“大人の議論”が売りです。1回目は今月12日に「ガソリン税」「年金・医療制度」「景気」をテーマに放送しました。2時間の番組中に700通を超えるメール、フ

アクセスが届きました。

第2回目として5月4日(日)に「教育」を取り上げます。放送は総合テレビ午前10時5分から11時54分までです。下記のアドレスでご意見募集が始まっています(タイトルは「変わる学校どうする学校」。

<http://www.nhk.or.jp/kaisetsu/>

周囲の関心のありそうな方々にも、お知らせいただけますと幸いです。NHK解説委員室 早川 信夫

TEL (03)5455-4017 FAX (03)3465-4420

E-mail hayakawa.nju@nifty.com

【連載】 理科教育改革の Tips 《3》

理事長 大木 道則

5) 子供に「自分が考えてやったのだ」と思わせる手段を講じる必要があります。

このためには、教師と子供との対話が重要です。教師が一方向的に喋りまくっては、子供の自主性が発揮できるチャンスがないからです。対話はまた、教師が、ここまでは子供も理解していたと主張できる根拠を与えます。最近の子供は、自己を主張する経験が不足していますので、ときにはまだるこいのですが、返事が必要なければ待つ必要があります。の点、小学生はまだ御しやすいのですが、中学生になると、特に、「間違っことを言うて恥づかしい」とかの羞恥心のせいだと思いますが、口を閉じてしまうことが多いようです。私は、しかし、これは、これまでの教育が「教える」一辺倒だったせいではないかと思っています。我々の運動が、学校現場に十分染み込めば、これは改善されてくるのではないのでしょうか。中には、小学校から始めるのでは20年近くも待たなければならないという意見もありますが、私は、小学生は、そのうち中学生になり、高校生や大学生になるのももう数年先にはみえているわけですから、自分の意見を述べる習慣を小学生の段階からつけてあげるのは意味のあることだと思っています。日本の社会の実情を見ていて、一人が意見を述べると、その尻馬に乗る、いわゆる付和雷同型の人間がいかに多いことか、自分の意見を持ち、それを的確に述べる習慣の重要性が痛感されます

6) 専門家として何かを教えたくなくなった時、子供のレベルを越えてしまわないことには注意が必要です。あまりにもレベルが高ければ、子供は「これは私には関係がない」と思ってしまうでしょう。

子供のレベルを超えることを教えてしまうと、もうそ

の知識は暗記しなさいというのと同じになってしまいます。どこまで教えてもよいかは、活動される会員のご判断にお任せしますが、一つの目安としては、教えようとしている内容が、学校理科の中で、上級学年または上級学校で扱われることがあるかを調べてみるのもよいでしょう。小学校でやっている場合、中学校で扱われる内容なら、もう少し高級なことは中学校で習いますよといった予告をして、そのような機会が来たとき、「あ、小学校で聞いた話はこれだったな」と思わせるのも一つの戦略だろうと思います。

この Tip を裏返して使えば、あることを教えなくなった時、それを実際に教えるか、教えるのをやめるかの判断に使うことも可能です。たとえば、個人の立場としては、どうしても教えたい事象・原理、法則などがあつたとします。その時、そのことが、学校教育の中で何回出てくるだろうかを考えてみるのです。一回も出てこない時は、それは、学問的には重要であつたにしても、教育的にはあまり意味がないものとして教えるのをやめることも考えてみる必要があると思います。(以下次号) 理事長 大木 道則

理事長へのご連絡は0354215701@jcom.home.ne.jpへどうぞ。

このニュースレターは SSISS 正会員の方々にお送りしています。電子メールを利用される方は下記宛にメールアドレスをお知らせ下さい。

news.ssis@mb.nifty.com

また、ニュースレターについてのご意見やご要望も上記宛にお寄せください。

住所その他の変更は本 NPO 法人宛にご通知をお願いします。

特定非営利活動法人科学技術振興のための教育改革支援計画 事務所

〒171-0021 東京都豊島区西池袋5丁目16番5号
立教池袋中学校・高等学校内